

AIDS について

John Kirkwood, Jinja RC, Ugandah

私はウガンダの Jinja という町に住んでいます。ウガンダで二番目に大きい町です。人口は、昼は二十万人、夜は十万人です。Jinja はビクトリア湖岸に面し、ナイル川の起始部です。熱帯気候で、年中、おいしいトロピカルフルーツがとれます。私の地区、第 9200 地区はロータリーワールドの中で、もっとも面積の広い地区の一つです。実際、最北端から最南端までは 2 週間のドライブですし、最東端から最西端までは 3 日のドライブとなります。地区は、Tanzania, Kenya, Uganda, Ethiopia と Eritrea の国からなります。海面からキリマンジャロ山頂まで、約 6 キロメートルあります。地区内には 80 のロータリークラブがあり、ウガンダにはその半数のクラブがあります。

2 週間ほど前に人生において初めての出来事が自分の身の上で起こりました。私はマラリアの重篤な発作に見舞われて、ジンジャから首都のカンパラまでの 80 キロメートルを、救急車で運ばれたのです。救急車に乗るのは初めての体験でした。そんな事が自分に起こるなどと夢にも思いませんでした。同じ週末に仲の良い友人が自動車事故で亡くなりました。私は弔意を表しにご家族のもとに駆けつけましたが、ご家族が異口同音におっしゃった言葉は、「こんな事が彼の身の上で起こるなんて……」でした。幸いにも彼には子どもがいませんでした。

ジンジャを出発し日本に来る前に、Churchie という名の若者に、「28 歳の誕生日おめでとう」と「さよなら」を言うために会いに行きました。彼は、私に bon voyage (また会いましょう) でなく Good-bye (さようなら) と言いました。同じ教会へ行くようになってから、彼と知り合いになって 5 年になります。彼は、背が高く、顔を良く、スポーツマンで、聡明で、立派な仕事も持った、ほんとうにナイスガイです。私が彼を訪ねたとき、彼は床に伏せていてやせ細り、以前の彼とはまったく違った人となっていました。彼はエイズだったのです。ちょっと前に私は彼とはなすことができました。彼は私に全てを話してくれました。彼はほんの数人の人しか、エイズのことを打ち明けていませんでした。彼は、カンパラにあるマッケレ大学で素晴らしい女性に出会いました。二人は恋人同士になり、お互い HIV テストを受け、その後お互いを信頼していたのでコンドームをつけずにセックスをしていました。彼は、彼女が HIV テストの結果を偽っていて、彼にエイズを感染させたのです。彼は彼女が病気になって亡くなったときに初めて自分も感染していることに気づきました。彼は HIV + という事に立ち向かう事ができず、AIDS の検査とカウンセリングをしている NGO の門をたたく事ができませんでした。最近になってようやく医師のもとで治療とカウンセリングを受けるようになりました。幸いにも彼には子どもがいませんでした。

南アフリカは AIDS の問題を抱えています。「空前の数の悲劇がアフリカを席卷している」 - 前南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ。「死が大陸に忍び寄る」という 2001 年 2 月 12 日号のタイム誌からの引用です。

「あなたの生活をこのようだと考えてみてください。朝起きて、朝食を三人の子どもといっしょにとる。1 人はエイズでもうじきに死ぬ運命にある。あなたの夫は 300km 離れた場所で仕事をしているので、一年に二回しか家に帰ってこないし、その間外で他の女性とセックスライフをしている。あなたは夫のセックスのたびにエイズ感染のリスクを背負う。あなたは、収入の術を持たない人々を 1 人の十代の若者が面倒をみながら 1 人で生活している所のちょっと先へ働きに行く。他の家では、奥さんが旦那にコンドームを使ってくれと頼むと、旦那は奥さんを売春婦呼ばわりし、殴り、通りに放り出す。医者にもかからず、食べ物や毛布もとらずに、通りにひどく病気の男が横たわっている。職場での 3 人に 1 人は、すでに致死的な病気に感染している。あなたは、彼女が厄病にかかり彼女へ石を投げつけて死なせた友人について、こそこそ話す。あなたは毎週土曜日に行われる葬式のためレジャーどころでない。自分たちは 40 代までしか生きられないのでは、という恐れとともに眠りにつく。あなたの隣人・や政治家たちは、何にも起こっていないかのような振る舞いをする」、これはジンバブエか南アフリカを描いたものです。タイム誌はまた、「昨年 50 万人のアフリカの子どもが HIV に感染した」と言及している。

あなたは、なぜサハラ砂漠より下のアフリカでこんなにエイズが蔓延しているのだろうか、と思うでしょう。

それは第一の理由として、この地域のエイズウィルスがたいへん強い種類のもので、という事です。それと、黒人が白人よりもエイズにかかりやすいという事が信じられている。

第二に、地方では都会でほとんど職にありつけないため、夫は都会に職を求め、伝統は主婦を田舎の家庭に縛り付けて、最後まで両親の面倒を見なければならない。子どもたちもそこで育ち、男社会に属する。低収入のため、夫はたびたび家に帰る金銭的余裕がない。そのため、夫は都会に愛人と子どもを作ることになる。田舎の妻もまた田舎に愛人を作る。南アフリカでは、炭鉱夫は何百マイルもときとして何千マイルも離れた田舎からでてきている人が多い。だから一年に一ヶ月以下しか田舎の自宅にいられない。多くの炭鉱夫は郊外の住

宅地に住むが、そこには売春婦が多い。ケニヤから西ウガンダやルワンダや東コンゴまで、4-6週間かけて移動するトラックドライバーが人気の商売であるが、AIDSはこれらのトラックの運転手で運ばれてくる。

第三に、セックスは人間として欠かせないものです。病気に感染する事を予防しながらセックスする事は、文化的でもなければ、男らしくない事なのです。

第四に、伝統が大きな役割を果たしています。ある地域では、妻の相続が行われます。長兄は未亡人や孤児の面倒を見る習慣があります。ケニヤのルオ族では、エイズで無くなった兄弟の妻と子どもの面倒を見なければなりません。

迷信も大きな役割を果たしています。魔術がいまだに大きな役割を果たしています。人が病気になれば、悪魔にとりつかれたと信じる人が多くいます。従って、病人は病院でなく呪術師へと連れて行かれます。そのため手遅れになる事が多いのです。

政府の対応がAIDSをコントロールする上でたいへん重要です。多くの国の政府は自分以外の他のことを非難し、AIDSの存在を否定すらしてきました。特に、観光資源に頼っている国では、ケニヤや南アフリカが自国のAIDSの問題を認めたのはつい最近のことです。ジンバブエやジャマイカがこの問題を認めるかどうかはまだ分かりません。

無学や意識の欠如も大きな役割を果たしています。もし、政府が問題を知らしめないなら、どうして一般国民がその問題を意識する事ができるでしょうか。メッセージが心に染み込むまでには、知識人をもってしても、8回は聞かなければなりません。ロータリアンはもっと聞かなければなりませんし、若者へはもっとメッセージが届けられねばなりません。ほとんど読み書きを教わっていないアフリカの人たちは何回聞けばそのメッセージを理解しえるでしょうか？

時々、色の問題が持ち上がります。アフリカの黒人には、AIDSはアメリカの実験室からやってきたと信じている人もいます。植民地政策への回帰のために黒人の人口を減らす必要があるからだといいます。コンドームは白人が黒人の人口を減らすために作っているのだ、という黒人もいます。これらが本当かどうかは別にして、白人よりも黒人のほうがより多く死んでいるのは事実です。

私は、南アフリカがAIDSの大きな問題を抱えていると言及してきました。ボツワナは成人の人口の36%、ジンバブエとスワジランドは25%、ナンビアと南アフリカとザンビアは20%がAIDSに感染しています。ケニヤでは感染者は14%、エチオピアでは11%です。これらすべての国では、感染者は増加傾向にあります。ウガンダでは、1990年の20%~25%から、8.3%へ減っています。どうか覚えていただきたいのは、これらは報告されたケースだけだという事です。おそらくボツワナの改善されたインフラは、より正確な統計を可能にしてくれると思います。他の南アフリカの真の統計はどのようなものでしょうか？

2000年の統計で、HIV/AIDS感染者は世界に3千6百万人います。その内の2千5百20万人がアフリカのサハラ下地域です。昨年、新たに3百80万人の感染者がでました。ケニヤではエイズで毎日700人が死んでいると報告がありました。まさに、1.5機分のジャンボジェット機の乗客が死んでいる事になります。エチオピアでは1999年に28万人がエイズで亡くなりました。毎日800人死んでいる事になります。

ウガンダでのAIDSの影響は計り知れないものがあります、

- ・ 1999年には11万人が死に、これまで90万人が死んでいる。
- ・ 170万人の孤児が生まれ、その多くがHIV陰性だが
- ・ 144万人が最近感染した
- ・ 1999年には、11万2千人が新しく感染した
- ・ ウガンダでは誰もが近い親戚、友人、同僚を失っている。私の家でも、私の助手が父を失い、教え子が母を失い父親は重態である。面倒を見ている孤児は母親を失った。
- ・ 2千100万人の人口の8%までになった孤児の面倒を見るという負担に対処しようと、多くの家族が戦っている。
- ・ 1人のロータリアンが22人の保護者のいない親戚を教育上の支援をしている。
- ・ ウガンダの多くのロータリークラブが孤児の教育プログラムを持っている。カンパラ市のあるクラブは376人の授業料を待つ孤児のリストを持っている。
- ・ 親をなくした孫をもつ祖父母が、孫たちの面倒を見ようと奮闘している。
- ・ 生産人口が最もダメージを受けている。
- ・ 平均寿命が54歳から42.9歳へ下がった。
- ・ 埋葬に対して、お金と時間が莫大にかかる。伝統的に、家族は悔やみのための訪問者に食べ物を出し、一週間泊めてあげなければならない。埋葬に参列するだけでも仕事から多くの時間が割かれる。
- ・ 孤児は授業料を払えないので、教育が受けられなくなる。
- ・ ストリートチルドレンの増加

- ・ 医療費の増大
- ・ 80パーセントのベッドがエイズ患者で占められる
- ・ 病気のほうへお金がかかるので、孤児に対する教育がおろそかになる

1986年、ウガンダは、エイズが国の主要な問題であると認めた、最初のアフリカの国となった。政府が主導し、NGOへ広く門戸を開き、いっしょに問題へと取り組み始めた。大きな会社が HIV/AIDS 患者の知識とケアを世間へ伝えることに、協力するようになった。この会社は、国外からの資金で作られている。私は、5月末、ケニアとウガンダを訪問し、AIDS 対策に 800 万ドルをそれぞれの国へ援助を約束した、アメリカ国務省長官へ心より感謝したい。

早い時期から、HIV/AIDS は単なる男性のホモセクシャルの病気でないという事を、ウガンダは主張してきた。最近では、女性のほうが20パーセントも多く罹患しているし、平均寿命も 5 年も短い。感染している男が処女とセックスすると病気が治るといふ、うわさがあるが、もちろんこんなことは無い。少女が若ければ若いほど感染しそうで無い、しかし、女生徒は贈り物とかお金の誘惑に負けて感染する。この事は、たびたび売春婦が明らかな理由により女学生の制服を着ているから、おわかりであろう。

AIDS とロータリアン。私のクラブで1人、他のクラブで2人の AIDS の兆候を示している方を知っている。彼等の2人は奥さんを亡くしている。奥さんが AIDS で亡くなったあと夫が交通事故で死んだロータリアンの夫妻をしている。ロータリアンだからといってエイズにかからないという事は断じて無い。

ウガンダでは、HIV/AIDS 領域で働くすべての運動体を総括する政府の組織がある。次の3つの NGO が重要なものである。

1. エイズ情報センター エイズにかかったのではと恐れる人の検査とカウンセリングにあたっている。無料のコンドームを配布。
2. TASO (The AIDS Support Organization) HIV+ の人と家族のサポート
3. STRAIGHT TALK FOUNDATION 月に2回の新聞発行をスポンサー。

15年前に、ウガンダがエイズが国の主要な問題と認めたときに、ケニアや他の多くの国は認めようとしなかった。その結果がどうだったか……成人の感染者が一気に30パーセントアップした。アフリカでは、親が感染する前にたくさんの子が生まれる。それゆえ、感染者でない多くの孤児が生まれる事になる。親が死んだり、病気になると、それは学校生活の終わりを意味する。時々、十代の子どもが家長として死に行く親や、他の兄弟の面倒を見なければならぬために、学校を止めなければならない。少女にとっては、売春が家族のパン代をかせぐ上で、もっとも手取り早い方法だ。少年は、家族の食費のために犯罪に走る事になる。車のライトやミラーやスペアタイヤを盗み、現金に換えるのだ。シンナーやガソリンを嗅ぐ事が、現実を忘れさせてくれ、夜には暖かさを感じさせてくれる事になるのだ。

伝統的に、父親が死んだ時に、長兄が家族の面倒を見る事になる。たくさん親が死んでいるので、多くの家族が孤児の面倒を見るための経済的負担の中にある。余りに多くの親が死んで行くので、孤児は結果的に祖父母に負担をかける事になる。年寄りには余分な蓄えは無い。しかしながら、授業料の負担が無くなれば、多くの家族は孤児を大事な家族の一員として迎え入れて行けるのだ。

AIDS がこのまま広がれば、未来は暗いように見える。最近の予測では、アフリカでは2010年までに、あと 9 年で、7100 万人以上の人々が死ぬ。そして、4400 万人の孤児が生まれる。

昨年は、トニーというストリートチルドレンにジンジャで会った。彼の母はエイズで死んだ。彼の父は職場で感電死した。親戚は近くに誰もいなかった。12歳の時に放り出され、ストリートチルドレンとなった。ある男が彼を親戚を探しに北へ連れて行ってあげると話したが、兵士として連れて行かれると警告された。彼は私の家に住み、学校へ通った。最近、祖母を探し当ていっしょに住んでいる。他の子どもたちにトニーと同じことが起きたら、何千というストリートチルドレンがまた新たに生まれる事になる。

TASO についてお話しましたが、授業料を提供する組織です。私は Tofta Educational Trust という基金を持っています。この基金は 150 人の恵まれない子どもたちに授業料を提供するものです。私の家族は、一年に \$36,000 を拠出しています。一年に 3 回、スタッフが 600 人の応募者から選び出し、\$12,000 ずつ支出しているのです。まったく広報をしていますが、応募者は押し寄せてきます。各期ごとに、担当者が授業料支給者の学校、家庭を訪問します。各学校では、校長先生がもっと奨学生を取って欲しいと懇願します。しかしながら、時としていいニュースがあります。ある朝、たいへん具合の悪そうな夫人が私の家を訪れました。顔は苦痛でゆが

み、とても弱々しく見えました。彼女はとぎれながら話し始めました。夫はエイズで亡くなり、自分も HIV+ である。三人の子どもがおり、彼女の母親が一日に一回の食事を作ってくれる。子どもたちは、1 人は足の骨髄炎だが、学校へ行くのに 5 km も歩かなくてはならない。私たちは三人の子どもを学校の寄宿舎に入れました。そうしたところ、この母親はみるみるうちに回復しました。授業料を心配しなくてもいいし、食べ物の心配をしなくてもよくなったからです。三人の子どもたちはとても良い学校の成績を上げています。

恐らく、このエイズの話は日本のロータリアンにどんな関係があるのだろうか、とお思いの方がいらっしゃるでしょう。ウガンダは HIV/AIDS の感染者が少なくなった世界で唯一の国です。その原因は、情報公開です。エイズは、ロシアでも、アメリカでも、イギリスでも、他の発展途上国でも、世界中いたるところでエイズの感染者が増える可能性があります。ニューヨークでは、55 歳代にエイズのピークがあるそうです。アトランタでは、2 - 3 年に一つの学校から、あるパーティーに参加した 70 名の高校生が性病に感染していました。幸いにも治癒可能な性病でした。このような十代のセックスパーティーはごく普通のことだそうです。このアメリカの出来事は、またたく間に世界中で真似される事でしょう。

エイズに効く薬はエイズの蔓延を防ぐ事ができるでしょう。しかし、この薬はとても高く、ウガンダではたったエイズ患者の 1 パーセントしか使えません。長期間にわたる薬の効果については誰も知らないのが現実です。

ウガンダでは、エイズをための ABC を教えられます。

A: 禁欲……多くの人にとって現実的なことでしょうか？

B: 信頼……あなたはそうでしょう、しかしあなたのパートナーは？

C: コンドームの使用

もし、あなたがコンドームを使いたくないというなら、「それではエイズを試してみてください」。ウガンダでは、コンドームが広く宣伝されています。コンドームは、プロテクターとかライフガードという名前でたいへん安く売られています。ウガンダでは、このコンドームの使用がエイズ患者発生を防いでいるのです。

最近、自宅に電話を入れた時に、運転手のエミーが、チャーチは今、昏睡状態だと教えてくれました。チャーチは私がウガンダの自宅を出発したあと、「私は二度とジョンに会えないだろう」と話したそうです。エミーは、彼の葬式に参列するために私の車を使ってよいかの許可を求めていました。チャーチは 6 月 29 日に死んだエイズ患者として記録された事でしょう。次のエイズのケースは、まさか彼にはそんな事が起こるはずが無いと思われたその人なのです。